

阪神港における港湾運営会社の取り組み状況


2018年8月3日

阪神国際港湾株式会社

【経営理念】

阪神港の物流機能の強化を通じて、国際競争力を高めることで、西日本経済の発展と市民生活の向上に貢献

【基本戦略】



集貨・創貨

競争力強化(ターミナルの高規格化・効率化)

戦略的かつ機動的な経営

集貨・創貨の取組例～ポートセールス～

新たな航路や荷主を誘致するため、説明会・セミナーの開催や物流展の出展など、積極的なセールスを展開。

○H30集貨事業説明会

- ・ H30.4.19 神戸 (68社 136名の参加)
- ・ H30.4.20 大阪 (75社 128名の参加)
- ・ H30.4.26-27 東京 (76社 145名の参加)

○セミナーの開催

- ・ H29.7.21 神戸港セミナー
(インドネシア・スラバヤ)
- ・ H29.9.6 大阪港セミナー
(マレーシア・クアラルンプール)
- ・ H30.1.26 阪神港セミナー
(タイ・バンコク)
※阪神港として初開催

平成29年度主な新規航路

○平成29年4月

神戸 → シンガポール ノンストップ航路『J P X』サービス開設 (CMA CGM)



(出典)国土交通省港湾局作成

開設後、顧客のリードタイム短縮のニーズを捉えて、好調なサービスになっている(船社へのヒアリングによる)

コンテナ取扱貨物量の増加

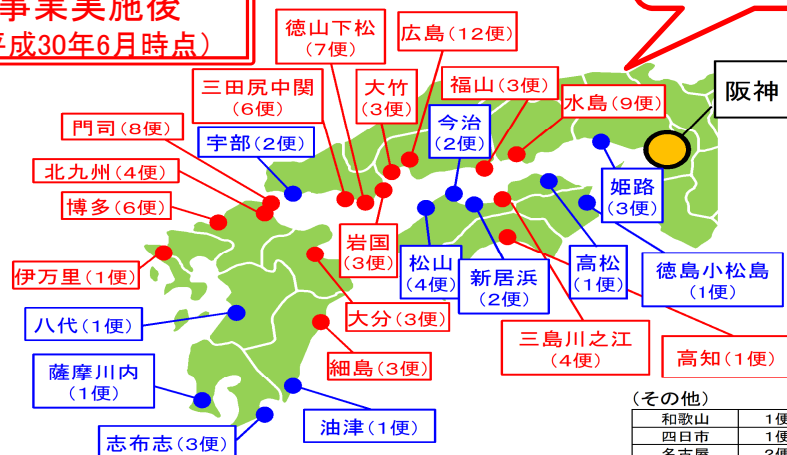
【阪神港】平成28年 502万TEU → 平成29年 525万TEU

集貨・創貨の取組例～国際フィーダー網等の強化～

貨物の誘致にあわせ、国際フィーダー網の強化や阪神国際港湾(株)が運営するインランドデポを活用したコンテナラウンドユース等を推進。

国際フィーダー網の強化

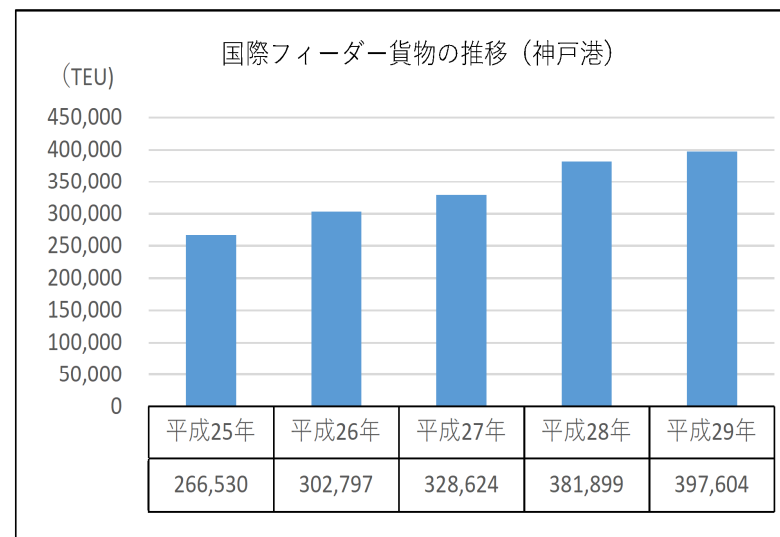
事業実施後
(平成30年6月時点)



※ 赤字・赤丸(●)の港は、寄港便数が増加した港

(その他)	
和歌山	1便/週
四日市	1便/週
名古屋	2便/週
横浜	2便/週
東京	2便/週

寄港便数: 68→102便/週(約5割増)



国際フィーダー貨物が集貨事業実施前から年間約13万1千TEU増加(約5割増)

H25年 26.7万TEU→H29年 39.8万TEU

コンテナラウンドユースの推進

阪神港の利用を促進するため、自社のインランドコンテナデポも活用し、コンテナラウンドユースを推進。

●インランドコンテナデポ運営状況

H26.4月	阪神インランドコンテナデポ滋賀開設 [滋賀県野洲市]
H28.10月	阪神インランドコンテナデポ滋賀みなくち開設 [滋賀県甲賀市] ※野洲市から移転
H30.6月	これまでの取り扱い実績 2,324TEU (搬出1,136TEU・搬入1,188TEU)



集貨・創貨の取組例～新たな貨物の創出～

アジア広域集貨プロジェクトチームとして、国際トランシップ機能の再生等に積極的に取り組む。また、食の輸出促進を図るため、冷凍混載輸送サービス拡大の支援等に取り組む。

アジア広域集貨プロジェクトチーム

瀬戸内・九州方面を中心とした西日本からの集貨に加え、経済成長が著しい「東南アジア」を重点的なターゲットとして、トランシップを含む集貨戦略を検討

(参加企業・団体)

物流事業者、荷主、国土交通省
神戸市、阪神国際港湾(株)等

プロジェクトチームの取組

神戸港への集貨に寄与するトライアルの実施やITの活用等を検討中

(トライアル例)

神戸港に寄港する異なる船社のスペースを組み合わせ、NVOCCが東南アジア→神戸港→北米の一貫輸送サービスを提供

1回目：平成29年11月24日 ハイフォン港発

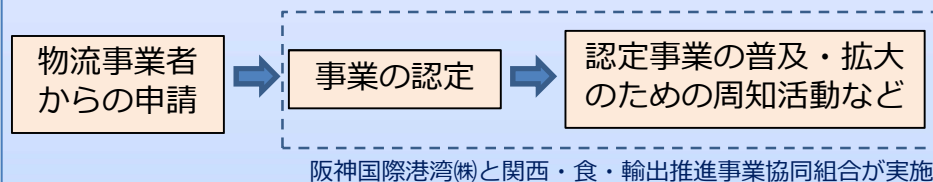
2回目：平成30年7月20日 ハイフォン港発

※このほか、物流改善のトライアル案件を公募中

食の輸出促進の取組み

食輸出の機運の高まり等を背景として、大阪港からの食の輸出促進に関する取組みを展開

(大阪港を仕出港とした冷凍混載輸送サービス提供事業のスキーム)



(認定事業者)

(株)上組、日本通運(株)、(株)日新の3社

(食の輸出促進に関する取組み実績と予定)

認定事業のパンフレットを作成し、セミナーや商談会で周知活動等を実施

- ・「大阪港 食の輸出セミナー&商談会」H29.9
- ・「Food Japan 2017 (シンガポール)」H29.10
- ・「Foodex Japan 2018 (幕張)」H30.3

⇒商談会の開催、国内外商談会への出展、輸出促進支援事業の創設

競争力強化の取組例～ターミナル・GCの整備～

効率的なオペレーションが可能となるターミナルレイアウトへ改良。また、高規格ガントリークレーンの整備にあたり、将来の熟練労働者不足も見据え、運転支援システムを導入。

大阪港C9ターミナルのレイアウト・荷役方式の改良による生産性向上

荷役機械やシャーシ等の動きをシミュレーションし、最も生産性の高いターミナルレイアウト等を検討・提案・改良。平成29年9月より全面供用開始。

【主な改良点】

- ①ヤード内の荷役方式をストラドルキャリアからトランスファークレーンに改良
 - ②ターミナル内でのシャーシ滞留を解消するためゲートを増設
- ➡コンテナ貨物の蔵置能力が増大
年間取扱能力が約1.5倍に増加
 - ➡本船荷役スピードの向上

ストラドルキャリアによる荷役



トランスファークレーンによる荷役



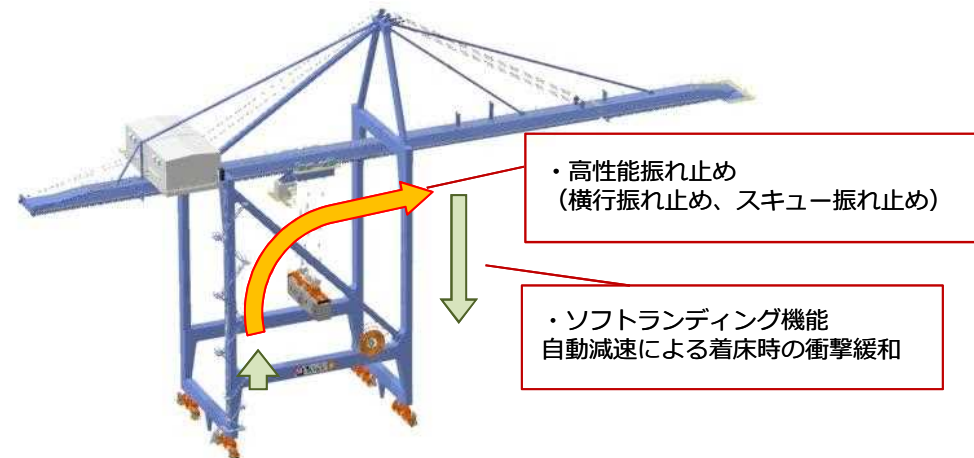
ガントリークレーンへの運転支援システムの導入

将来の熟練労働者不足も見据えた運転支援システム（高性能振れ止め、ソフトランディング機能）の導入

【導入】

RC6 / 7 5基
PC15~17 4基（平成30年度2基導入予定）

運転支援システム



海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律(海外インフラ展開法)の成立を受け、その施行に向けた準備を実施中。

平成30年5月25日

海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律の成立

(平成30年8月31日施行)

平成30年6月22日

当社の事業に「海外の港湾の整備及び運営並びにこれらに関する調査」を追加

(株主総会で定款を変更)

(現 在)

海外インフラ展開法の
施行に向けた体制整備
を検討中

- ・ 海外港湾物流プロジェクト協議会(8月1日)等を通じた情報収集を実施
- ・ 国土交通省、国際関係公益法人、商社、金融機関等との意見交換を開始

アジア広域集貨

○ 世界各地⇔阪神港⇔アジア・西日本の集貨

➡ 集貨インセンティブ等へのご支援

○ 阪神港の付加価値の醸成

<港湾サービスの信頼性の確保、オンドック機能の高度化等>

➡ クレーンの更新、ヤードの拡張等へのご支援

○ AIやIoTの活用

<蔵置プランニング等の最適化、RTG遠隔操作等>

➡ 国による基礎技術の開発、導入促進へのご支援

海外事業

○ 海外業務経験の蓄積

➡ 情報提供等のご協力